



チリ、拡大するFTAネットワークとビジネス機会

2007年3月14日
ジェトロ・サンティアゴ
大久保 敦

1. 拡大するFTAネットワーク(その1)

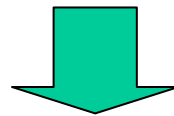
チリはFTA先進国

(経済補完協定発効)

米州 カナダ(97年発効)、メキシコ(99年発効)、中米(コスタリカ・エルサルバドル2002年発効、ホンジュラス・グアテマラ・ニカラグア99年調印)、米国(2004年発効)、パナマ・ペルー・コロンビア(2006年調印)、メルコスール()、ポリビア()、ベネズエラ()、エクアドル()、キューバ(98年調印)

欧州 EU(2003年発効)、EFTA(2004年発効)

アジア・オセアニア 韓国(2004年4月発効)、P4:ニュージーランド・シンガポール・ブルネイ(2006年11月発効)、中国(2006年10月発効)、インド(2006年3月AAP調印)、日本(2007年9月発効予定)



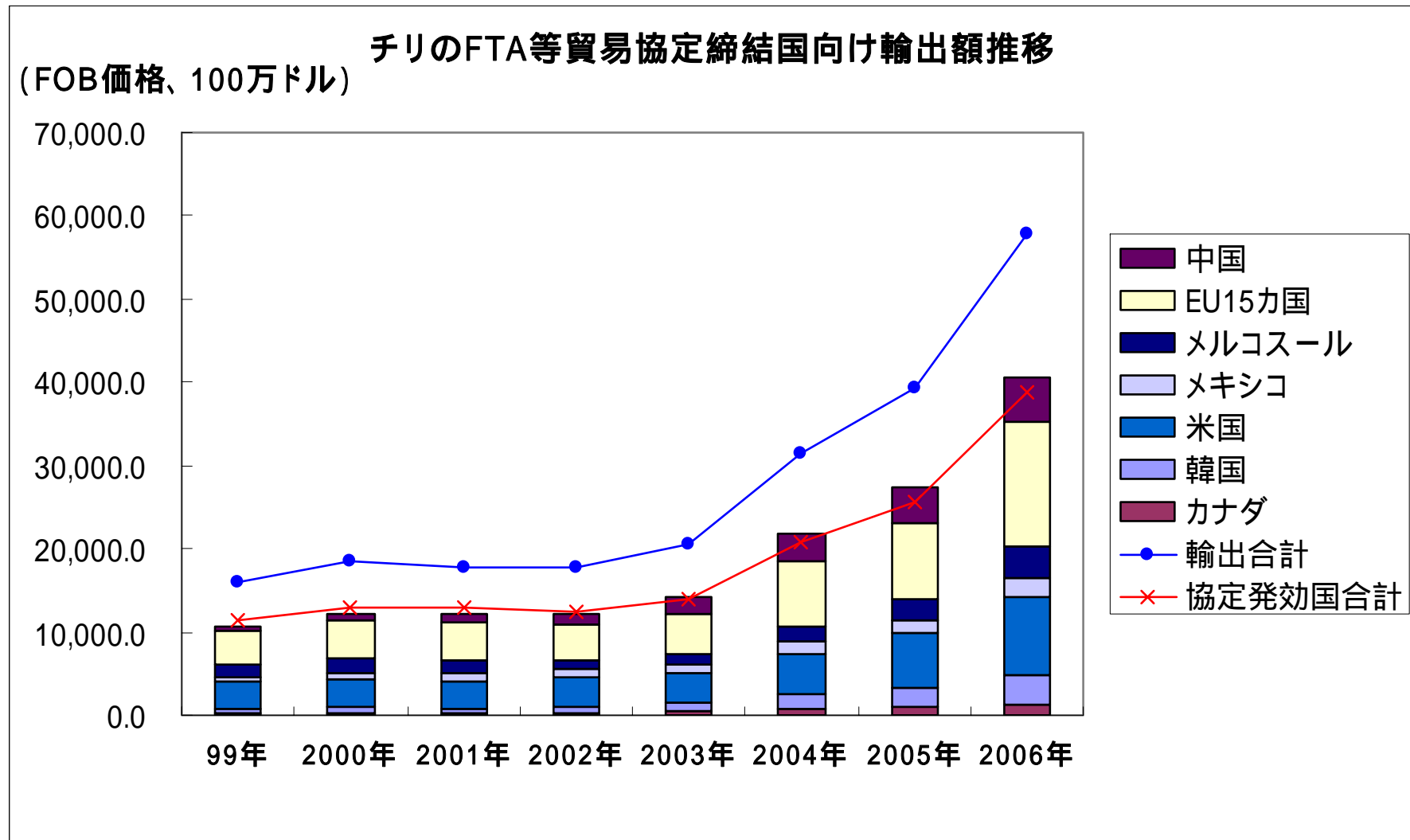
財・サービス(移動促進)



完成した米州・欧州とのFTA
アジアとのFTA推進によるアジアとの物流コスト低減
アジア市場輸出開拓、アジア・中南米間貿易投資ハブ機能強化

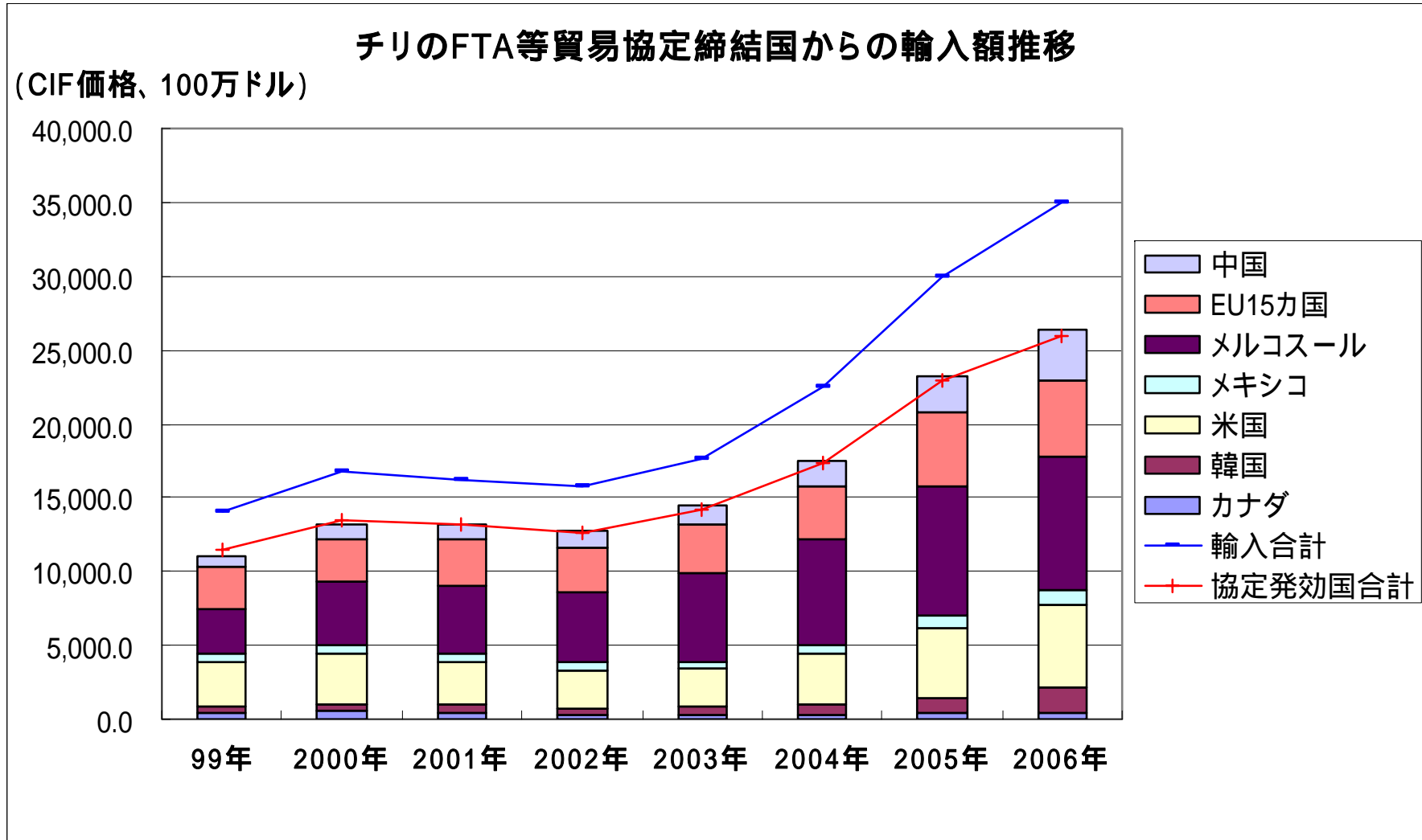
1. 拡大するFTAネットワーク(その2)

2006年輸出総額(578億ドル)に占める協定発効国への輸出割合は74.7% (+中国:78.8%、+P4、中国:79.0%、+P4、中国、日本:88.8%)



1. 拡大するFTAネットワーク(その3)

2006年輸入総額(349 億ドル)に占める協定発効国からの輸入割合は76.3% (+中国:88.2%、+P4、中国:88.4%、+P4、中国、日本:92.3%)



2. FTAと同時並行で拡大する租税条約ネットワーク

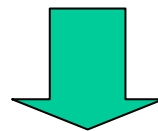
(無印:発効済み、 調印済み、 交渉終了、 交渉中)

米州 カナダ、メキシコ、アルゼンチン、エクアドル、ブラジル、ペルー、パラグライ 、
米国 、コロンビア 、キューバ 、ベネルエラ

欧州 ポーランド、フランス、デンマーク、クロアチア、スペイン、ノルウェー、英国、
スウェーデン、ポルトガル 、ロシア 、アイルランド 、ベルギー 、フィンランド 、
スイス 、オランダ 、ハンガリー 、イタリア 、チェコ

アジア・オセアニア 韓国、ニュージーランド、マレーシア 、タイ 、インド
オーストラリア 、中国

アフリカ・中近東 南アフリカ 、クウェート



投資・配当コスト低減により中南米広域ビジネス誘致狙う

3. 進展する航空協定締結(路線、輸送量、コードシェア取り決め)

米州 カナダ、米国、オランダ領アルーバ、コスタリカ、グアテマラ、パナマ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ボリビア、エクアドル、アルゼンチン、キューバ、ウルグアイ、メキシコ、ペルー、ブラジル、ジャマイカ、ベネズエラ

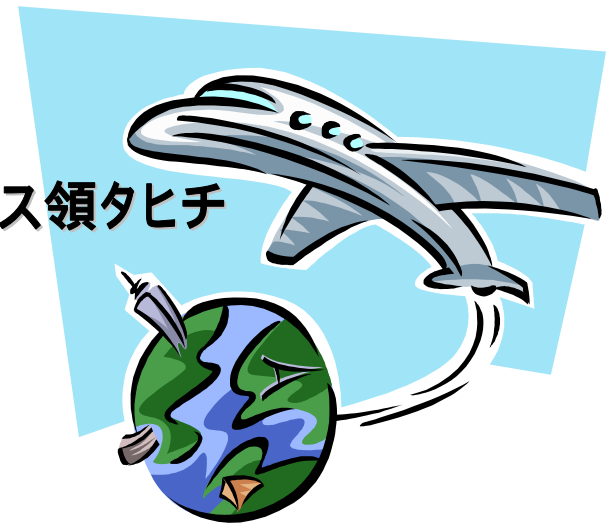
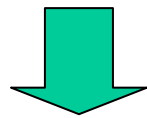
欧州 ベルギー、デンマーク、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、ルクセンブルク、英国、イタリア、ドイツ、スペイン、フランス

アジア ブルネイ、韓国、シンガポール、マレーシア

オセアニア ニュージーランド、オーストラリア、フランス領タヒチ

中東・アフリカ イスラエル

財・ヒト(移動促進)

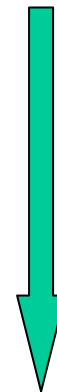


ヒトの往来を促進してFTA・二重課税防止条約効果を補完
チリの強みである生鮮食品輸送に欠かせない航空輸送

4. チリってどんな国？



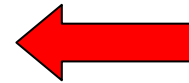
南米大陸の西端に浮かぶ島国のような国
北はアタカマ砂漠、東はアンデス山脈、南は南極、
西は太平洋に囲まれた辺境の地
人口1500万人足らずの小さい社会
多種多様の自然、鉱物資源が豊富な国
原住民インディオと欧州からの移民で構成された国



今日の経済発展、チリ文化・人間形成の基盤に

5. チリ人はどんな気質 どこか日本人と似ている？

勤勉・真面目
外見・人目を気にする
礼儀・誠意・義理を重んじる
本音と建前がある(表と裏の世界)
恥ずかしがりや
感情を表に出さない
我慢強い(中・長期的に物事を考える)
せっかち。はや歩き。運転が早い。
権威のある人、外人を大事にする



本当にラテン気質？



中南米の英国人とも
言われている

街中で見知らぬ人に声をかけるとどうなるか？

メキシコの経験	にっこり笑う。深い意味はなし。
ブラジルの経験	簡単な会話が始まる。親しくなることも。
チリの場合	大概無視する。見て見ぬふりをする。

チリでの初対面での会話ベスト3は？

職業は？ ステータス・収入安定度を探る。
どこに住んでいるの？ 所得・資産レベルを探る。
家族は元気？ 独身か既婚か？ 家族構成を探る。



6. チリはなぜ中南米の優等生と呼ばれるか？

経済・通貨の安定した国

(2005年GDP成長率6.3%、2006年推定4.4%)



中南米では豊かな国 1人当たりGDP(2005年名目):チリ 7,124ドル、ブラジル4,320ドル、アルゼンチン4,799ドル、ペルー2,841ドル

財政が健全な国

(財政経常黒字:2005年GDP比4.7%、2006年推定7.6%、公共事業6割はコンセッション)

低インフレ・金利の国

(2005年消費者物価上昇率3.7% 2006年推定3.1%、2007年1月中銀指標金利5.25% 5.0%)

ニュービジネスを他の中南米に先駆けて整備する国

民営化(80年代～、電力、通信、水道、道路、刑務所、病院など)

E-ガバメント:チリ政府ポータルサイト・行政手続きポータルサイト稼働

2003年7月末公共調達運営規定(法律第19886号)発効 公共調達ポータルサイト稼働 2005年電子入札化

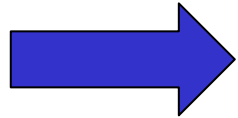
年金民営化(AFP)、民間医療保険制度(ISAPRE)導入(80年代)

地球温暖化防止:クリーン開発メカニズム(CDM)

教育熱心な国 高等教育義務化(2003年)



7. 総額に占める日本・チリ輸出入額の割合



チリにとって日本は重要な輸出市場
日本にとって理解されにくいチリ市場の重要性

チリの対日貿易額(2006年)

輸出額:65億895,0万ドル
輸出総額の11.2%, 米国に次いで2位

輸入額:11億4,730万ドル
輸入総額の3.0% 米国、アルゼンチン、ブラジル、中国、韓国に次いで9位

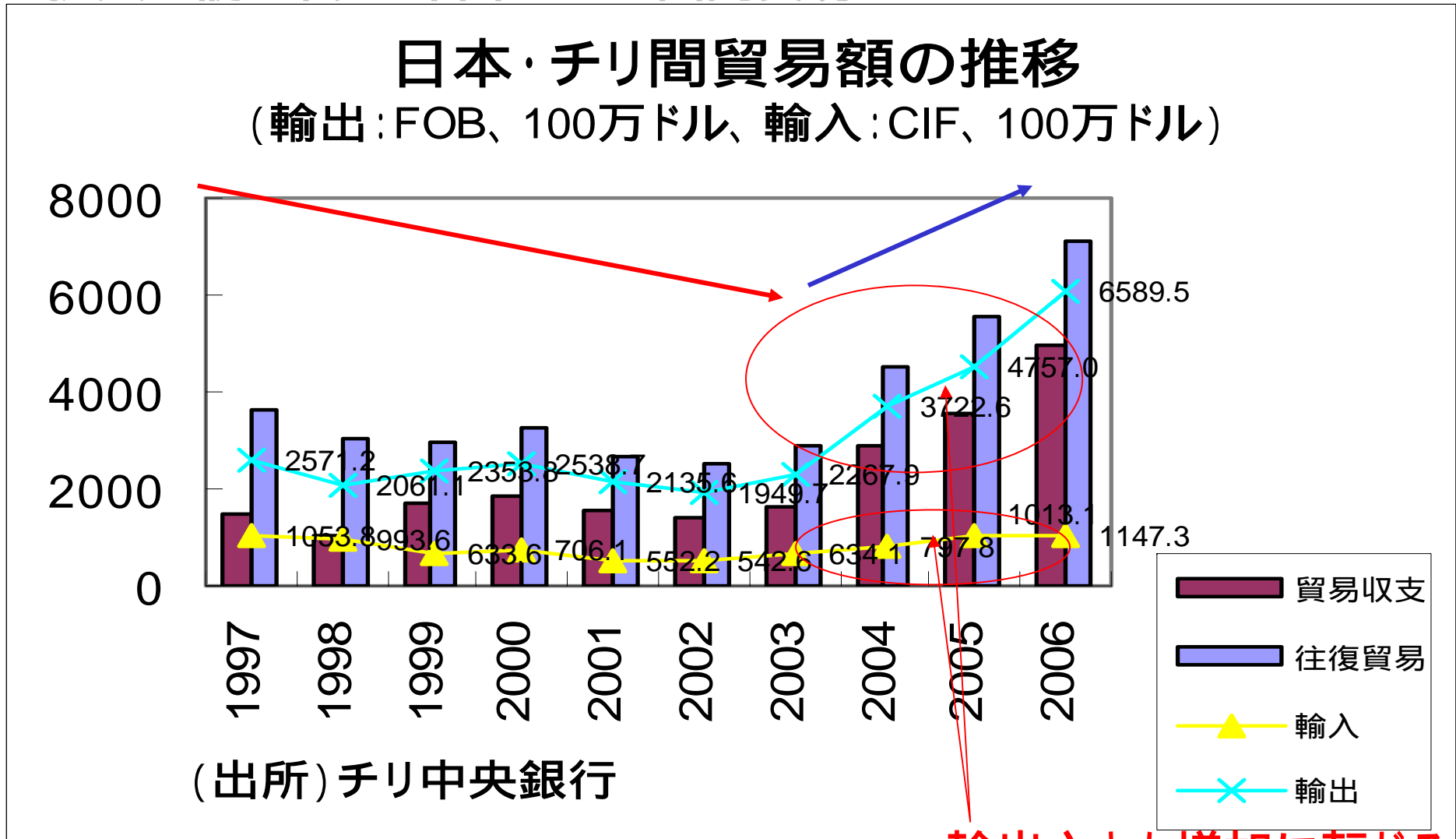
日本の対チリ貿易額(2005年)

輸入額:66億8,610万ドル
輸入総額の1.2%, 第35位

輸出額:10億8,780万ドル
輸出総額の0.2%, 第63位

8. 日本・チリ貿易・投資関係

拡大基調に転じる日本・チリ2国間貿易



輸出入とも増加に転じる

9. チリの対日主要輸出品目 (2006年)

資源・食糧の供給が主体。
国際市況相場の影響を受けやすい

品目	輸出額	増減	シェア
輸出総額	6,589,511	38.5	100.0
海産物・同加工品	836,057	10.2	12.7
鮭・マス	661,639	10.6	10.0
魚粉	79,413	28.1	1.2
ウニ	56,108	-6.2	0.9
農産物・同加工品	251,585	-3.6	3.8
豚肉	173,969	-6.0	2.6
ワイン	13,174	14.8	0.2
木材・同加工品	299,052	14.8	4.5
木材チップ	50,706	27.2	0.8
製材	248,346	12.6	3.8
鉱物・金属	4,928,052	55.4	74.8
銅 (精鉱/精錬銅)	4,148,570	85.2	63.0
その他	215,178	-30.0	3.3

(出所) チリ中央銀行の統計を基にジェトロ・サンティアゴ事務所にて作成

10. チリの対日主要輸入品目(2006年)



自動車、タイヤ、機械機器、電子・精密機器、船舶
特定の品目の集中し製品の幅がない

品目	輸入額	増減	シェア
輸入総額	1,147,316	13.3	100.0
ゴム製品	55,999	14.3	4.9
鉄鋼製品	11,993	112.6	1.0
機械・同部品	194,978	78.7	17.0
電気製品・同部品	28,710	82.7	2.5
自動車・同部品・オートバイ	554,323	4.5	48.3
乗用車	377,790	9.4	32.9
トラック	172,816	-4.6	15.1
精密・光学機器・同部品	10,751	-29.6	0.9
その他	290,562	0.9	25.3

(単位: CIF、1,000ドル、%)

(出所) チリ中央銀行の統計を基にジェットロ・サンティアゴ事務所にて作成

11 . 総額に占める日本・チリ投資額の割合



日本の対チリ投資額の割合は僅かだが、増加基調。
日本側統計で把握できない第3国経由投資の実態

チリの対日直接投資受入額 (チリ外国投資規定 600号に基づく実行投資額)

2004年受入額:1,830万ドル(総額の0.4%)
2005年受入額:4,720万ドル(総額の2.9%)
2006年受入額:5,120万ドル(総額の1.6%)

日本の対チリ直接投資額(財務省報告・届出ベース)

2005年度投資額 :1,800万ドル(総額の0.039%)



日本の投資は鉱業、食品加工などの製造業に集中
日本への資源・食糧供給が狙い



少ないサービス部門への投資。しかし変化の兆し
欧米、中南米での競争力を反映。他国でも同様の傾向

総額に占める部門別直接投資額の割合 (74 ~ 2005年)

(単位: 1,000ドル)

部門	実行投資額 (暫定)				総計に占める 日本の割合
	日本		外国投資規定600号総計		
	金額	%	金額	%	
農業	4,474	0.3	263,966	0.4	1.69%
建設	1,000	0.1	1,413,376	2.3	0.07%
電気・ガス・水道	0	0.0	11,590,304	19.1	0.00%
製造業	239,040	13.4	7,652,899	12.6	3.12%
鉱業	1,362,442	76.2	19,977,051	33.0	6.82%
水産・漁業	7,858	0.4	296,745	0.5	2.65%
サービス	140,327	7.9	11,811,124	19.5	1.19%
林業	27,235	1.5	249,927	0.4	10.90%
輸送・通信	4,946	0.3	7,334,931	12.1	0.07%
合計	1,787,322	100.0	60,590,323	100.0	2.95%

(出所) チリ外資委員会 (チリ外国投資規定600号に基づく実行投資額)

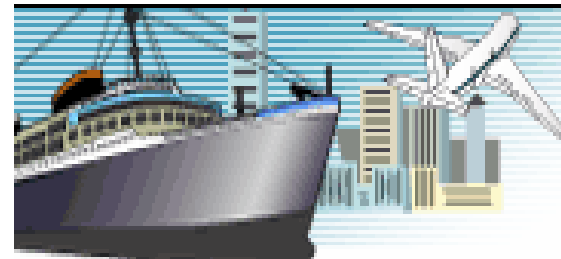
12. 日本からみたチリの位置づけ

チリのメリット

限定的な国内市場 + 資源が豊富・世界的な食糧生産適地
資源・食糧の輸出余力
拡大を続ける資源・食糧確保投資
ポテンシャルの高い資源食糧産業向け資機材・エネルギー
供給ビジネス

チリのデメリット

限定的な国内市場規模
限定的な日本の対チリ輸出
輸出伸び悩みによる対チリ投資頭打ち



13. チリ市場の底力(その1)

チリは日本製自動車の最重要マーケット

高い国民所得、ブラジル、メキシコ、アルゼンチンは安い現地生産車を供給

中南米テストマーケット、ビジネスをし易い市場

低リスク市場(DICONによる信用情報効果で代金未回収リスクなし)
開放市場、高所得市場、シンプルな税制、透明性高い制度・政策、
輸入統計公開 競争市場でリターンを確保できるか。

欧米アジアとのFTA締結で成長する輸出産業(資源・食糧)

脆弱な国内資本財製造業 資源・食糧輸出増とともに資本財輸入が増加

輸出産業向けの資本財需要は国内市場規模とは無関係
良好な資本財輸出環境 関税ゼロ、国内産業保護規制なし。

鉱山用機械、紙・パルプ工業用機械、発電・送電設備、
農業用機械・資材(容器・包装)、水産用機械・船舶、
物流関連設備・機械、食品関連機器・資材 など。

13. チリの底力(その2) エネルギー・プラント需要が急増

景気回復、輸出産業の電力需要増

アルゼンチン天然ガス輸出制限

電力サービス法改正1 (法律19940)

消費者負担増で発電事業収益確保

9MW以下再生エネルギー利用の

発電施設は送電料金の負担不要に

電力サービス法改正2 (法律第10014号第96条ter)

再生可能エネルギー利用発電事業者に対し

競売を介さずに配電業者に電力を供給する権限を保証

当該電力量は配電業者の規制対象需要家 (0.5MW以上

~ 2MW未満の顧客一部と0.5MW未満小口) の総需要量の5%以内

発電・送電、LNG調達
プロジェクト誘発

LNG調達プロジェクト(チリ北部および中部の2カ所)

(専用船ターミナル、再気化プラント建設)

発電プロジェクト(南部アイセン地区大型水力発電、

石炭火力、LNG再気化火力発電)

送電プロジェクト アイセン・チリ南部接続

再生エネルギー利用発電 小型水力、太陽光、地熱

風力、コジェネレーション、バイオマス



13. チリ市場の底力(その3)

期待されるアンデス横断回廊、南米太平洋港としての役割

(パナマ運河コスト高、中国需要増、課題は周辺諸国との調整)

中南米広域サービスビジネスへの拠点

中南米のシンガポール

(バックオフィス、コールセンター、IT開発拠点、統括拠点、欧米企業約50事例)

ヤフー: 中南米リサーチセンター設置

コダック: 中南米の医療映像業務を統括

アリコ: 中南米スペイン語圏業務統括

P&G: 中南米健康・美容事業統括

IBM: オンデマンド・ソリューションセンター設置

ロイター: スペイン語ニュースサービス本部

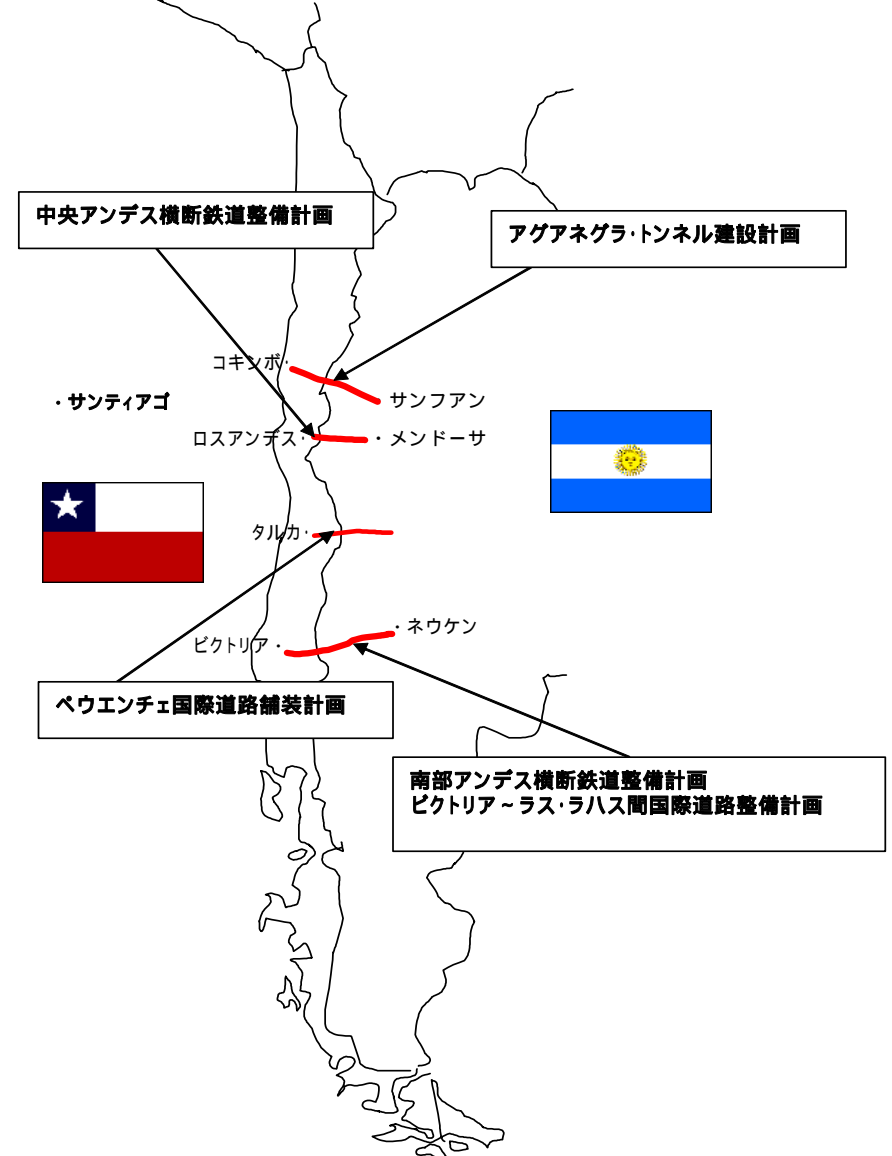
HP: 中南米ヘルプデスクコールセンター設置

JPモルガン: 中南米取引業務用ソフト開発拠点

BBVA: 中南米年金基金管理ソフト開発拠点

シティ: 中南米域内サービス支援センター設置

チリ・アルゼンチン間アンデス横断回廊整備計画



(出所) チリ公共事業省 (MOP) の情報をもとにジェトロ・サンティアゴ作成

14. 対アジア資源供給基地としてのチリの役割

(生産量 2005年、埋蔵量 可採埋蔵量)

銅(生産量・埋蔵量1位) モリブデン生産量(生産量2位・埋蔵量3位)

リチウム生産量(生産量・埋蔵量1位)、ヨウ素(生産量・埋蔵量1位)

銀(生産量5位・埋蔵量NA)、ホウ素(生産量4位・埋蔵量NA)

カリウム(生産量12位・埋蔵量12位)、セレンウム(生産量4位、埋蔵量1位)

レニウム(生産量1位・埋蔵量1位)

**埋蔵量のみならず輸出余力としての潜在性
日本のハイテク産業を支えるチリの資源**



リチウム 日本は世界のリチウムイオン電池生産拠点

モリブデン 自動車潤滑油、液晶用バックライト電極などに利用

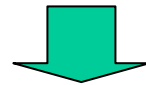
ヨウ素 X線造影剤、殺菌剤、殺虫剤、肥料として利用

レニウム フィラメント、熱電対、水素化触媒に利用

セレンウム 生体微量必須元素(抗酸化・抗癌作用)、複写機感光体ドラム、ガラス工業(不純物吸収・透明化)などに利用

15. 安全な食糧供給基地としてのチリの役割

アタカマ砂漠、アンデス山脈、太平洋、南極に囲まれた辺境地
容易な病害虫対策、世界有数の有機栽培適地
厳しい検疫、中南米で先行するトレーサビリティ
多様な気候・地形・土壌、端境期での出荷
勤勉な国民性、果実栽培で培ったノウハウ



多種多様な食糧供給にメリット

- 果実・類(ブドウ、レモン、サクランボ、洋ナシ、プラム、イチゴ、ベリー、アボガド
乾燥果物)
- 野菜類(アスパラガス、トマト、レタス、ニンニクなど)
- 水産物(鮭・マス、ウニ、ホタテ、あわび、メロ、海藻類)
- 畜産品(豚肉、鶏肉、牛肉、七面鳥肉、乳製品、はちみつ、プロポリス)
- 加工品(ワイン、オリーブオイル、ローズヒップ、グレープシードオイル、
各種ハーブ、ミネラルウォーター、栗、アボガドオイル)

16. 拡大する対アジアFTAネットワークとビジネス機会

韓国チリFTA発効(2004年4月1日)

FTA発効による関税負担6%削減。韓国製自動車輸入増加
チリのエネルギー不安で燃料(ディーゼル油)輸入急増

チリの対韓国輸入額(2006年)

品目	(単位:CIF、1,000ドル、%)		
	輸入額	増減	シェア
輸入総額	1,640,747	52.4	100.0
自動車・同部品・オートバイ	482,454	33.2	29.4
乗用車	363,560	33.4	22.2
トラック	87,786	24.3	5.4
ゴム及びゴム製品	12,787	-12.9	0.8
プラスチック及びその製品	150,332	24.0	9.2
電気製品・同部品	175,376	33.1	10.7
機械・同部品	41,279	-10.8	2.5
燃料(ディーゼル油類)	515,312	234.3	31.4
鉄鋼	33,928	216.7	2.1
鉄鋼製品	10,400	61.9	0.6
その他	218,879	-4.4	13.3
(出所)チリ中央銀行			

16. 拡大する対アジアFTAネットワークとビジネス機会

中国・チリFTA発効(2005年10月1日発効)

競争力の高い繊維製品、玩具など雑貨品輸入が増加。

デパート、家電量販店はプライベートブランドで中国製家電製品輸入を推進。

2007年の注目は中国製自動車輸入動向(排ガス規制クリアできるか?)

チリの対中国輸入額(2006年)

	(単位: CIF、1,000ドル、%)		
品目	輸入額	増減	シェア
輸入総額	3,490,335	37.3	100.0
ゴム製空気タイヤ	23,135	10.1	0.7
衣類及び衣類付属品	347,037	30.8	10.0
履物	133,404	17.7	3.8
電気製品・同部品	222,527	56.5	6.4
機械・同部品	240,178	55.9	6.9
玩具	23,101	42.5	0.7
その他	2,500,954	36.7	71.5
(出所)チリ中央銀行			

16. 拡大する対アジアFTAネットワークとビジネス機会

インド・チリ部分到達協定(AAP)調印(2006年3月8日)

AAP発効後、FTA締結を模索。

小型乗用車、手袋類、医薬品、硫酸塩コバルト、トランスフォーマー、紡績糸、綿製テーブルリネン、録音媒体、複素環式化合物、カーペット、医薬品(インスリン含有物)、皮製衣類、綿製カーテン、綿製ブラウスの輸入拡大に期待。

チリの対インド輸入額(2006年)

	(単位:CIF、1,000ドル、%)		
品目	輸入額	増減	シェア
輸入総額	164,497	22.0	100.0
自動車・同部品・オートバイ	17,895	75.2	10.9
乗用車	15,570	79.0	9.5
有機化学品	6,224	12.0	3.8
医薬品	8,413	15.7	5.1
電気製品・同部品	9,809	46.6	6.0
機械・同部品	3,490	3,821.0	2.1
革製品	9,528	16.5	5.8
紡織用繊維のその他の製品	5,450	0.5	3.3
じゅうたん、その他織物用繊維敷物	3,865	4.2	2.3
鉄鋼	5,824	707.8	3.5
衣類および衣類付属品	5,054	69.3	3.1
その他	88,942	6.0	54.1
(出所)チリ中央銀行			

16. 拡大する対アジアFTAネットワークとビジネス機会

チリ・タイFTA共同研究会立ち上げ(2005年11月)

報告書取りまとめ(2006年11月) 実質交渉開始待ち

ピックアップトラック(輸入全体の3割)、セメント、洗濯機、マグロ(冷凍・調製品)、天然ゴム、有線通信機器・同部品、昇降機、蒸気発生ボイラー部品、エチレン製袋、パイナップル保存品、デジタル式処理装置の輸入拡大に期待。

チリの対タイ輸入額(2006年)		(単位: CIF、1,000ドル、%)	
品目	輸入額	増減	シェア
輸入総額	272,715	172.2	100.0
自動車・同部品	87,810	21.8	32.2
トラック	86,929	122.0	31.9
ゴム及びゴム製品	5,686	32.5	2.1
水産物の調製品	6,089	41.8	2.2
電気製品・同部品	8,374	80.0	3.1
機械・同部品	30,257	134.1	11.1
鉱物・燃料、並びに鉱物油	82,777	0.0	30.4
その他	51,722	51.7	19.0
(出所)チリ中央銀行			

16. 拡大する対アジアFTAネットワークとビジネス機会

チリ・マレーシアFTA共同研究会立ち上げ(2005年11月)

報告書取りまとめ(2006年11月) 実質交渉開始待ち

携帯電話・同デジタル集積回路、UHFとVHF受信・中継器、医療用手袋、ラップトップコンピュータ、自動車用録音装置・音声再生装置、木製家具(椅子、テーブル類)、情報処理機器部品、液晶モニター、アンプ、有線通信機器部品の輸入拡大に期待。

チリの対マレーシア輸入額(2006年)

	(単位:CIF、1,000ドル、%)		
品目	輸入額	増減	シェア
輸入総額	188,416	39.6	100.0
ゴムおよびゴム製品	9,426	59.6	5.0
電気製品・同部品	53,807	8.8	28.6
機械・同部品	39,716	289.5	21.1
鉄鋼製品	43,605	-	23.1
家具	10,787	61.8	5.7
その他	31,072	-50.5	16.5
(出所)チリ中央銀行			



チリ・ビジネス情報はジェトロ・サンティアゴWEBサイトへ
<http://www.jetro.cl>